

## 夏の花「景観形成」のお手伝い



八方原の環境を守る会では当初より地域の環境保全に取り組んできました。その中でも「景観形成」という事業で花壇のお世話をしてきました。

去年は「アサガオ」を全面的に植えて、大きな花をいくつも咲かせることができました。今年はアサガオに加えてひまわりも植えました。すこし遅い

時期に植えたので、生育がうまくいくかどうかどうにか心配でしたが、何とか花を咲かせてくれました。ひまわりにも種類があつて、丈の高いものや低いもの、一つの幹にいくつもの花をつけるもの、色の違うものなど様々です。  
しかし、最大の難関は雑草です。きれいに処

### 稲ができるを待つのはニンゲンだけでは無い



白い小さな花が開きはじめた穂先 (8月6日)

この写真は8月初めに撮影したものです。5月の終わりに植えた早生に花がつかまりました。小さい広い花ですが、大事な段階です。花の時期を終えると次第に稲穂は大きくなり堅くなります。  
今度は雀たちの出番です。雀は水田の害虫を食べてくれる「役鳥」なのですが、この時期から実りかけた稲穂をつついて駄目にしてしまいます。  
全体の割合からすると、わずかなものですが、早朝、市道一面に広がる雀を見ると、わずかなものとは言えないかも知れません。

### 通算100号達成

農地水環境保全の事業が始まって以来、続けてきた小誌が、おかげさまで100号の発行となりました。この間の皆様のご支援、ご協力に厚く御礼申し上げます。  
書記

も知れませぬ。これこそ、農業に関わる一番の問題か

理したつもりでも、すぐに別のところから、別の草がどんどん生えて

### 再申請の手続きが完了

農業の多面的機能発揮のための法律に基づいて今後の活動は行われますが、そのためには法律に基づいた手続きが必要になります。

7月24日に行われた説明会の後、必要な書類を整えて、市役所農業整備課に提出したところです。一部書類の差し替えがありました。8月23日に手続きは完了しました。

活動そのものは従前と変わりはありませんが、今まで事務作業や申請業務を支えてくれた、土地改良団体連合会が居なくなったのは寂しいですね。

# 慰霊と感謝のふれあい盆踊り大会

八方原ふれあい盆踊り大会が8月1日の夕刻から行われました。平成元年しばらく途絶えていた盆踊りの復活と地域住民の交流を図るために企画されました。

以前は初盆を迎えるお家で、盆踊りが催されてきました。しかし、踊りができるほどの庭のお宅も少なくなっただけで、途絶えがちになっていました。

地区全体で盆踊りすることになってから、バザーも始まりました。その中



太鼓のリズムだけの「白河踊り」若い叩き手が登場



なかなか始まらないけれど、誰かが踊り出せば

で今も人気の高い焼き鳥ですが、これは、かつてこの地域に「養鶏」に力を入れていた頃の名残です。殆ど養鶏も終わりの頃に中村善夫さんの提供で鶏を頂き、それをボイルしたものを、20数年前の若者グループが串に刺して、提供したのが始まりでした。

年々不要なものは淘汰され今の形になっていきます。先人たちへの慰霊と共に笑ひ合える喜びに感謝の気持ちを含めての盆踊りです。

今では地区の定例行事として親しまれ、この地を離れた人もこの時には

帰って来られる人もあります。また地区内の事業所からもたくさんのお力添えを頂き、こうして運営が続けられています。

ふしの夏祭りの総踊りに参加しないことになったので浴衣の貸し出しも無くなり、かつてのように揃いの浴衣姿は見られなくなりましたが、たくさんの方が踊りの輪に加わりました。若い人や、子どもたちも参加して賑やかなものになりました。

八方原の環境を守る会では、昨年同様に焼き鳥などのハードな作業を担当



パレードのように次々に (山口県立大学のよさこい)

## 世界のみなさんこんにちは

世界スカウトジャンボリーが阿知須きらら博記念公園で7月の終わりに8月にかけて開催されました。開催中は猛暑日の連続、少々気の毒でした。

7月31日は、「ヤマグチナイト」というイベントがありました。世界からのお客様さんに「ヤマグチ」を知ってもらう日です。

防府の天神祭で披露される「女神輿」や大学生などのよさこいなどが次々に披露されていました。

一般来場者には、各国の自慢料理が販売されていました。人気の高いブラスには長い人の列ができていました。最後は花火が打ち上げられ、夏の夜空にいくつもの大輪が舞いました。



自家製クッキー「瀬戸きらら」